



Step 1 進む人口減少 少子高齢化の 流れに向かい合う

▲中心市（十和田市、三沢市）と周辺町村が1対1で協定を締結

地方圏で進む深刻な人口減少、少子高齢化。住みやすさを求め、都市部に人が流れていきます。そのため、単独の市町村で十分な生活機能を維持し、確保することが困難となつていきます。十和田市でも、過去10年間で人口の約4千人が減少しています。そこで、人々が地方に定住するための新たな取り組みが「定住自立圏構想」です。国は2008年、定住自立圏構想を提唱しました。これは、この構想を進めるべきと判断した人口約5万人以上の中心市と、密接にかかわる周辺市町村が一つの圏域を形成。相互に連携し、地域住民の生活機能を確保していくことで暮らしやすく魅力ある地域を創るものです。4月現在、全国では67の圏域が形成されています。

十和田市は、三沢市と共同で中心市を結成し、10月4日、周辺町村（野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、秋田県小坂町）と「上十三・十和田湖広域定住自立圏」の協定を締結しました。県内では、八戸市と弘前市を中心市とした圏域に次いで3例目となります。



南部裂織のように…
地域の特徴を生かし
新たなひとつの圏域を紡ぐ

Special edition



2市7町1村。伝統工芸から学ぶ新しい連携のカタチ

定住自立圏構想

十和田市と三沢市—共同中心市・2市長が定住自立圏にける想い

Top's Voice ▶ October 4, 2012

美しい郷土に生まれ生きる人々の 生活を守ることが最大の使命

わが国では、少子高齢化、人口減少が確実に進んでいます。このような中で、わたしたちの圏域は非常に広大であり、かつ豊かで、多様な文化、自然、風土、歴史などの地域性に恵まれています。

このように美しい郷土に生まれ、生きる人々の生活の営みを守っていくことが、この定住自立圏を進めるわたしたちの最大の使命です。そのため、地域力の結集が何よりも必要です。

今後、具体的な取り組みとなる定住自立圏共生ビジョンを年度内に策定することになりますが、関係市町村の皆さまとともに、持続可能な地域の未来像を描きながら、一步一步、定住自立圏を進めていきたいと考えています。



種市 一正 三沢市長
Taneichi Kazumasa



小山田 久 十和田市長
Oyamada Hisashi

多様な特色を認め合い、尊重しながら紡ぐ 南部裂織のような圏域へ

上十三・十和田湖広域定住自立圏の協定締結は、5年、10年の中長期的な視点による実際の取り組みを進める上でのスタートラインです。関係市町村の皆さまと力を合わせ、「できることから着実に」取り組みを深化させていきたいと存じます。

市町村それぞれで事情は異なりますが、この特殊性、多様性は圏域を形成する上で大きな強みになると期待しています。

古い布を裂き、多種多様な新しい布地を織る伝統工芸品・南部裂織のように、圏域市町村が互いの多様な特色を認め合い、尊重しながら一つの形に紡いでいく、そのような圏域にしていきたいと考えています。

上十三・十和田湖広域定住自立圏

明治11年、藩政時代の北郡が南北に分かれてきた上北郡。昭和30年代に十和田と三沢が市となってからは、両市を中心に上十三地域として人々の生活と密接にかかわってきました。また、十和田湖に接する秋田県小坂町、八戸圏域定住自立圏と重複する形でおいらせ町が加わり「上十三・十和田湖広域定住自立圏」が形成されました。

十和田市と三沢市の2市を中心市とし、県境を越え、他圏域と一部重複する「複眼・県境・圏域重複型」は、全国で初の事例となります。



野辺地町 Noheji Town

- ① 14,706 人
- ② 81.61 km²
- ③ 葉付きこかぶ、長芋、けつめい茶、ホタテ、とげくりがになど

横浜町 Yokohama Town

- ① 5,070 人
- ② 126.55 km²
- ③ なたね、長芋、馬鈴薯、毛まめ、ホタテ貝、横浜なまこなど

六ヶ所村 Rokkasho Village

- ① 11,167 人
- ② 253.01 km²
- ③ 本格長芋焼酎「六趣」、長芋、ごま六、うば玉、いか沖漬けなど

東北町 Tohoku Town

- ① 19,451 人
- ② 326.71 km²
- ③ 長芋、しじみ、シラウオ、ワカサギの佃煮、はちみつなど

七戸町 Shichinohe Town

- ① 17,442 人
- ② 337.23 km²
- ③ マイルド229、熟成にんにく、長芋、カシス、地酒「駒泉」など

三沢市 Misawa City

- ① 42,180 人
- ② 120.09 km²
- ③ ほっき貝、いか、さけ、ひらめ、ごぼう、長芋、にんにくなど

秋田県小坂町 Kosaka Town

- ① 5,942 人
- ② 201.95 km²
- ③ ヒメマス、小坂ワイン「樹海」、アカシアクラフト、竹の子など

おいらせ町 Oirase Town

- ① 25,089 人
- ② 71.88 km²
- ③ 清酒桃川、長芋、ほっき貝、銀の鴨、エゴマ油、アピオスなど

六戸町 Rokunohe Town

- ① 10,735 人
- ② 84.06 km²
- ③ 大玉にんにく、にんじん、長芋、シャモロック、野菜焼酎など

十和田市 Towada City

- ① 65,326 人
- ② 725.67 km²
- ③ にんにく、長芋、ごぼう、長ネギ、しいたけ、馬肉料理など

面積 約 2,328 km²
人口 約 21 万 7 千人

青森県の面積の約 24%、人口の約 16% を占める広域な圏域。三沢空港や新幹線七戸十和田駅などの高速交通拠点、豊かな自然や特産品に恵まれ、特色ある観光資源にあふれています。

- 市町村名
- ① 人口 (H24.10.1 現在)
 - ② 面積
 - ③ 特産物など
- 市町村章

上十三・十和田湖広域 定住自立圏 形成協定合同調印式



▲調印した協定書を掲げる、上十三・十和田湖広域定住自立圏の市町村長 (写真左から) おいらせ町、東北町、六戸町、野辺地町、十和田市、三沢市、七戸町、横浜町、六ヶ所村、秋田県小坂町

十和田市を含む上十三地区の住民は、普段から通勤・通学や医療、買い物、イベント施設の利用など市町村を越えて往来が盛んです。また、十和田市と秋田県小坂町は十和田湖を介して観光資源の共有、医療機関の利用など密接なかわりがあります。観光資源あふれるこの地域の特色を生かし、中心市と同じ政策に取り組み圏域町村が連携し、住みやすく、魅力ある圏域の創出を目指す、この新しい連携のカタチが「上十三・十和田湖広域定住自立圏」です。協定(内容は7ページ)を締結したことで、圏域は目指すべき将来に向けての取り組みのスタートラインに立ちました。

Step 2 2市7町1村 定住自立圏 形成協定を締結

県境を越えて締結 東北全体の観光振興につながるものと期待



▲共同中心市・2市長と固く握手を交わした

小坂町は廃藩置県前に南部藩に属しており、地域的なつながりが浅からぬものと感じています。

日本国内はもとより、世界的に風光明媚な景勝地である国立公園十和田湖を介して十和田市とは広域観光を目指し、ともに各種施策に取り組んでいます。

この定住自立圏構想は、秋田県内でも注目されており、県境

細越 満 Hosogoe mitsuru 秋田県小坂町長

を越えた定住自立圏構想策定の波及効果は秋田県の観光振興にとどまらず、震災で大きなダメージを受けた東北全体の観光復興につながるものと、期待されています。

今後、これを機会に関係市町村の皆さまとさらに連携を深め、ご助言などをいただきながら各種施策に取り組んでいきたいと考えます。

共生ビジョン、策定へ

協定では、以下の政策分野で連携し、取り組むことを決めました。定住自立圏は、5年、10年先を見据えた中長期的な取り組みです。10月4日の協定締結は、スタートライン。
今後、中心市と関係町村は有識者からの意見を取り入れながら連携・協力して、協定内容を土台とした具体的な事業計画「共生ビジョン」を策定します。

結びつきやネットワークの強化

政策分野・連携施策	取組内容
地域公共交通	圏域に住む人々が移動手段に困らず、また便利に使えるよう、バスや電車など地域公共交通の維持・確保、交通施設の整備、そのほかさまざまな交通手段の検証・実証・導入などを行います。
インフラ整備に関する要望活動など	市町村をつなぐ幹線道路の整備促進や、三沢空港の発着路線の拡充について要望活動を行います。
公共施設の相互利用	圏域に住む人々の学習活動、文化活動、スポーツ活動の拡充を図るため、圏域市町村が設置する運動施設や文化・社会教育施設などの相互利用を促進します。
文化・芸術	美術館や記念館の企画展などを充実させ、情報発信や集客事業を効果的に実施。地域文化の発展や地域経済の振興を図ります。
圏域内の交流促進	各種イベント情報などを相互に共有・活用することによって圏域に住む人々の交流促進、圏域の活性化を図ります。

圏域マネジメント能力の強化

政策分野・連携施策	取組内容
人材育成	職員の資質向上と職員間のネットワークを強化するため、合同研修や人事交流を行います。

生活機能の強化

政策分野・連携施策	取組内容
医療	地域医療ネットワークの充実 救急医療や高度医療を担う中核病院と圏域内の各病院や診療所の役割分担と機能連携の強化、ネットワーク化を促進し、地域医療ネットワークの充実を図ります。
福祉	子育て支援の充実 圏域に住む人々が利用できる子育て支援関連事業の広域化を推進し、圏域全体の子育て支援サービスの充実を図ります。 認定審査会業務の連携 介護保険法に規定する介護認定審査と、障害者自立支援法に規定する障害程度区分認定審査の公平性・効率性を確保するため、認定審査業務を共同で実施します。
教育	図書館の相互利用の促進 圏域内の図書館の相互利用に取り組み、圏域に住む人々の文化・教養の向上を図ります。また、図書館資料の情報などの共有化を図り、利用しやすい図書館サービスを推進します。 生涯学習情報の提供 圏域内の各市町村が実施する各種講座などの開催情報を相互に提供し合う体制を構築し、圏域内の教育、学術、文化、スポーツ、福祉などの多様な生涯学習の機会を充実を図ります。 英語教育の充実 国際性に立った広い視野とともに、豊かな人間性とコミュニケーション能力に富んだ人材育成を図るため、より質の高い英語教育を推進するための調査・研究に取り組みます。
産業振興	広域観光の推進 圏域内に存在する観光資源の魅力を生かした広域的な観光ルートを設定するとともに、情報発信などを行います。 特産品の販路拡大 圏域内の特産品に関する情報を相互に提供し合い、関係団体などと連携し、圏域の特産品の販売戦略を展開するとともに、これらを活用した地域ブランド化の推進を図ります。
防災・消防	防災 大規模災害時における相互応援体制を含め、圏域内の防災体制の整備、充実を図るため、防災計画・防火訓練などの情報を共有し、職員を対象とする合同研修や訓練などを実施します。 消防 消防施設などの効率的な整備・運用を図るため、消防指令業務共同化事業と消防救急無線デジタル化事業に関する調査研究を行います。

一本の糸が集まり織り込まれることで多種多様な布地となります。同じように多種多様な特色を持つ市町村が集まり、連携することで、新たな魅力が生まれるのです。
今、求められているのは新たな連携のカタチと将来を見据えた持続的な取り組みです。
「できることから着実に」を合言葉に、上十三・十和田湖広域定住自立圏は動き出しています。

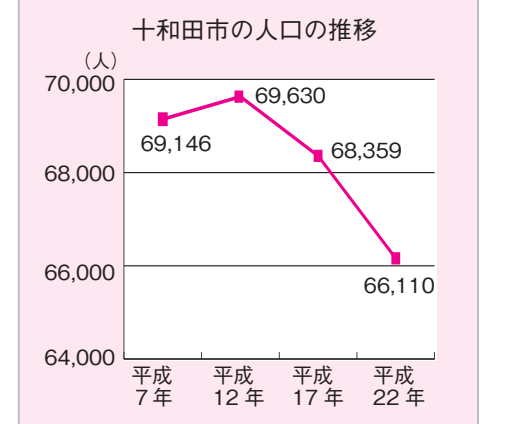
特集 定住自立圏構想 おわり

Point 定住自立圏構想の制度概要

日本は、人口減少社会に突入り、少子高齢化が急速に進んでいます。今後、三大都市圏を除いた地方圏では特に大きく人口が減少していくと予想されます。こうした地域を取り巻く課題や環境変化に対応するため、提唱された新たな取り組みが「定住自立圏構想」です。

地方圏の厳しい現状

	2005年→2035年		
人口減少 少子高齢化	総人口は約13%減少見込み (約12,776万人→約11,068万人) 年少人口は約40%減少見込み (約1,759万人→約1,051万人) 高齢者人口は約45%増加見込み (約2,576万人→約3,725万人)		
大都市圏への人口偏在	1975年	2005年	2035年
三大都市圏	約5,323万人 (+1,095万人)	約6,418万人 (▲530万人)	約5,888万人
地方圏	約5,871万人 (+487万人)	約6,358万人 (▲1,178万人)	約5,180万人



▲圏域の結び付きのイメージ
中心市と周辺町村が1対1で結ぶ協定を重ねて作る圏域。中心市と同じ政策分野に取り組む周辺町村が連携して事業を行います。

集約とネットワーク

中心市である十和田市と三沢市は産業や商業・娯楽施設、中核的な医療機能、各種サービスの提供など都市機能に一定の集約があり、これからの機能は、圏域全体の暮らしを支え、地域の魅力の向上につながります。周辺町村は、中心市の都市機能を活用しながら、生活機能や農林水産業、自然環境などを確保します。

このため、中心市は圏域全体を取りまとめしながら周辺地域と連携することが重要となります。これが「集約とネットワーク」です。

中心市はまた役として関係町村とこれまで以上の連携をとり、「暮らしやすい」魅力的な地域の形成を目指します。

定住自立圏の連携は、これまでの市町村連携や一部事務組合とは異なる新しい連携方法です。また、定住自立圏を形成した市町村には国から一定の支援を受けることができます。自主的な取り組みに役立てられるような情報提供や地方交付税などの財政措置、事業の優先採択などを受けることができます。

上十三・十和田湖広域定住自立圏形成の歩みと予定の概略

2009	08.26	上十三地域広域市町村圏協議会(以下「協議会」)を発足 協議会にて定住自立圏構想にかかる勉強会を開催
2010	07-12	定住自立圏構想担当者会議を開催
2011	02.07	協議会市町村長会議で定住自立圏構想推進を決定。関係市町村の提案を受け、具体的な連携事項の検討を開始
2012	03.29	十和田市と三沢市による共同中心市宣言
	06	秋田県小坂町が県境を越え圏域に参加
	07	おいらせ町(八戸圏域にも属する)が圏域に参加
	07.27	第1回定住自立圏構想関係市町村長会議 協定内容について市町村長間で合意
2013	09	各圏域市町村で協定の締結に関し議決
	10.04	上十三・十和田湖広域定住自立圏形成協定に合同で調印
2013	01-03(予定)	共生ビジョン懇談会を開催 定住自立圏共生ビジョンを策定

